須賀川市教育研修センター・教育支援センターだより

「みち」 第 135 号

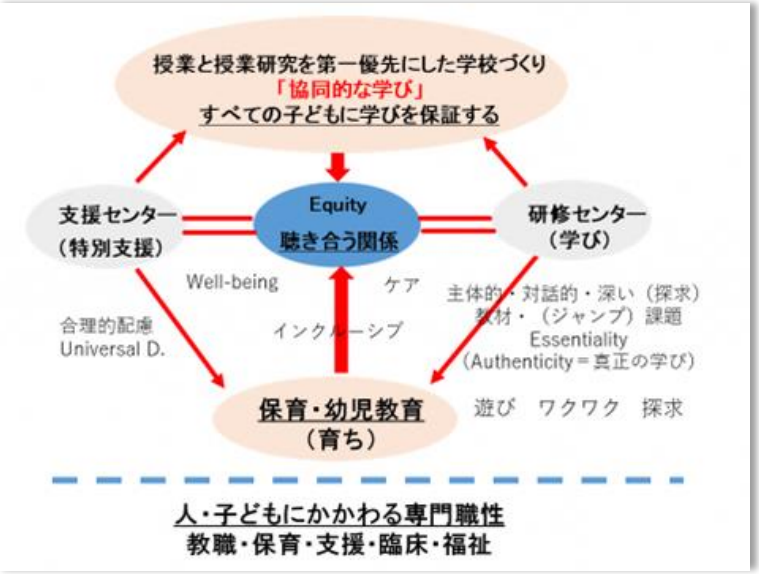
令和５年６月２６日 発行

４年ぶりの鼓笛パレード開催!!

５月２４日（水）に、令和５年度第５２回交通安全鼓笛パレードが４年ぶりに開催されました。保護者や市民の皆様の期待の下、子どもたちはそれぞれの学校の伝統を引き継いで晴れやかな表情で演奏し、行進しました。

指導主事研修会

５月３０日（火）に、前埼玉大学教育学部教授で、今年度から教育支援センター（教育研修センター兼務）指導主事の庄司康生先生を講師として、「指導主事としての学校・教員への支援のあり方―須賀川市の学校・園づくりの意義の確認と共有―」というテーマで研修しました。その中で、研修センター（学び）と支援センター（特別支援）は車の両輪のごとく、その融合がわれわれのミッションであるというお話がありました。それを図に表します。



他力本願について

今年度から今までの教育研修センターに教育支援センターが併置され、２ヶ月がたちました。センター内では、某指導主事の座右の銘である**＜他力本願＞**という言葉が４月から話題になっています。某指導主事は、少し自嘲気味に「私は基本他力本願だから」と言っていますが、それは、もっぱら他人の力をあてにする、他人任せという意味では決してないと思います。そもそも＜他力本願＞は仏教用語で、親鸞聖人が「教行信証」に「他力といふは如来の本願力なり」と明示しています。他力とは、他人の力ではなく、仏の力、阿弥陀仏の慈悲のはたらきをいうのだそうです。作家の五木寛之が「他力」という本を執筆していますが、その中で「もはや現在は個人の＜自力＞で脱出できるときではありません。法然、親鸞、蓮如などの思想の核心をなす＜他力＞こそ、これまでの宗教の常識を超え、私たちの乾いた心を劇的に活性化する＜魂のエネルギー＞です」と言っています。われわれの現実の生活に置き換えると、自分が主体的に一所懸命頑張って、それでもどうしようもないときは、誰かほかの人に頼むことも大切なことではないでしょうか。日々学校現場で子どもたちと真摯に向き合って実践している先生方、一人で全て解決しようと思わずに、同僚の先生方に相談したり、教育研修センター・教育支援センターを活用したりすることも必要ではないでしょうか。

第１回特別支援教育研修会

６月６日（火）に、令和５年度第１回特別支援教育研修会が、特別支援教育コーディネーターや特別支援教育支援員を対象に行われました。特別支援教育コーディネーター部会では、相談支援事業所ひだまりの管理者・相談支援専門員の安藤俊典氏を講師として、「相談支援事業所との連携を生かした児童生徒の支援について」というテーマで研修しました。障がい福祉サービスの種類として、障がい児通所支援の児童発達支援と放課後等ディサービスについて具体的な事業所（児童発達支援事業所１３か所、放課後等ディサービス１０か所）の紹介と利用の仕方についてご説明いただきました。また、家庭・教育・福祉との連携について、特別支援教育と障がい福祉領域とは異文化交流であり、大切なことは「異文化に対するリスペクト」「異文化を知ろうとする姿勢」であるという話がありました。特別支援教育コーディネーターの先生方には、相談支援事業所との連携を図りながら、地域の資源を有効に活用していただきたいと思います。

須賀川市立学校教頭研修会

６月７日（水）に、令和５年度須賀川市立学校教頭研修会が開催されました。研修では、教育支援センター（教育研修センター兼務）指導主事の庄司康生先生を講師として、「須賀川市が目指す学校づくり～校内の学び合い聴き合う関係を教頭先生がつくる～」というテーマで研修しました。須賀川市は授業と授業研究を第一優先にした学校づくりを目指していますが、庄司先生から「教頭先生」のミッションは？という問いかけがあり、協同的な学びの学校づくりにおける教頭先生のミッションについて、教頭先生が考えを持つ（校長先生や教員に、必要な時に必要なことだけ言う）ことが大切であるというお話がありました。その内容について、一部紹介します。

＜学校が学びの場、また職場として民主主義であること～そのために＞

◇　職場には、「観」の共有が必要

　みんなが考える＝哲学・ビジョンを考え、共有する→学校の民主主義、学びの場の民主主義

◇　学校のミッションを考えるのが管理職・教頭の役目

　教師・子どもを支え、育てる!!　子どもが学び合い、教師が支え合い、やりがいのある職場!!　矛盾する願いを実現する。

◆　考えずに校長に従い、有能に実施していく教頭は民主主義を生まない。教頭が考えないと学校づくりも、学校の民主主義は崩壊する。（考えない有能な教頭＝ナチスのアイヒマン）

おすすめの本の紹介

「世界がぐっと近くなる　SDGｓとボクをつなぐ本」　監修　池上彰

現在、学校教育の中で SDGｓの内容がたくさん盛り込まれるようになってきています。この本は、身近なことを題材にして、SDGｓ（持続可能な目標）の１７の行動目標をわかりやすく説明しています。イラストが多く、小学生の子どもたちにも理解しやすいので、ぜひ授業などでも活用していければと思います。未来を生きる子供たちが幸せに生きるために、何が必要なのか。この本を通して考えてほしいと思っています。